

# 日刊 動労千葉

86. 7. 21  
No. 2299

## 国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二二（七）七二〇七

### 大成功した富山上映会

7・9富山上映会は、闘う国鉄労働者を先頭に数多くの労組・学生・市民・文化人からの参加を得て開催されました。



### 感動よびおこした映画

この日にむけて何度かの街宣活動と、市民訪問、更には動労千葉の方との労組訪問に取り組み、西町・駅頭での情宣活動と市内にいたるところで目につくポスターは、動労千葉・上映実と市民との感動的な合流のうねりを巻きお

### 長崎で九州初の上映会に200名

多くの仲間を支えられて、物資販売オルグも前進

まだ梅雨もあけぬ七月五日、長崎の上映会と物販活動のため、博多にいったらどしゃぶりの雨でした。出迎えてくれた上映委員の人と簡単な打ち合せを行い、早速、市内の労組に取り組みのお礼と挨拶にうかがい、夜十九時四四分の最終特急で日本列島の最西端、長崎へ着いたのが二二時を廻っていました。長崎は歴史的に古くは殉教、そして広島とともに原爆投下を受けた県であり、政治との関わりが深い町です。

私は翌日より一週間、長崎県評、地区労はもとより福岡、佐世保、早岐と各地の労組役員・活動家を訪ね、交流し動労千葉の闘いの支援・連帯を訴えてきました。放課後、全員で待っていてくれた山のふもとの学校の先生達、上映会の紹介を機関紙に載せてくれた全通長崎、自治労佐世保、三菱長崎造船の各組合、大きな立って看とアジテーションで迎えてくれた長崎大学の若き学生達、当局の暴力的職場支配に抗して闘いぬいている国労の仲

こしました。訪問先では「動労千葉の映画か。是非見てみたい。チケットをくれ」と説明もしないうちからチケットを買った労働者。友達にも是非紹介したいという学生。まとめて何枚も買わねえとくれる労組・市民もあり、集会の成功は、この過程でほとんど決まりました。

会場では同時に、動労千葉の物品販売とパンフのコーナーが設けられ、花火とかアイスミックス・鶏のささみくんせいなどに人が集まり、パンフにも人が集中しました。

上映会では、冒頭、主催者として、富山における上映実行委の代表から闘う動労千葉の真実を伝える人民の文化として、この上映に取り組んだことが報告されました。次に電産レッドパージ原告として今も闘いぬいている方から「産報化への道を許さず、あくまで分割・民営化と闘いぬいて勝利しよう」という動労千葉への激励と連帯の発言が行われ、全体の拍手で確認されました。いよいよ動労千葉の登場です。動労千葉からは、成田支部副支部長の大畑氏は、2・15第二波ストの闘いで不当

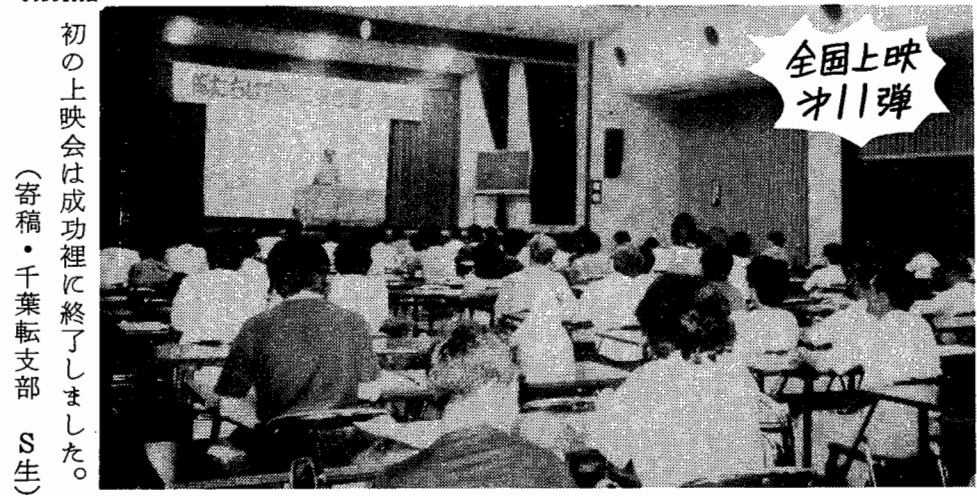
問達…、この一週間の日々は、数多くの出会いと感動の連続でした。そして、十一日上映会当日は、通学途中ピラで知り見に来た、という高校生を含め、二〇〇名の結集をもって動労福祉会館の講堂で定刻どおり国労のなかまの司会が始まりました。主催者の伊藤鉄東氏は「長崎の戦闘的闘いが結集した今日より、この映画とたった今飛行機で送られてきた中野委員長の新刊『俺達は鉄路に生きる』を武器に、ここ九州において分割・民営化粉砕の闘いの炎をもちやそうとのべられた。つづいて、朝一番の新幹線でかけつけてくれた宮島監督はリンカーンの言葉を引用し、金もうけや自惚れのためにつくられる映画はいっぱいあるが、この映画は「労働者の労働者による労働者のための」映画である。皆さんも動労千葉を守り、あとにつづいて欲しいと訴えられました。

上映終了後、鳴り止まぬ拍手の中、カンパビール、質疑応答を行い、九州最

解雇処分を受けつつも断固として闘い続けていることを明らかにしたうえで映画の背景事情や分割・民営化問題の本質とそれに対する動労千葉の立場、そして今後も動労千葉は正義の闘いを貫くという鮮明な決意を明らかにし、会場内は「やっぱり動労千葉はすごい。これにつづこう」という空気に包まれました。

映画は、さすがに数々の感動を呼びおこし、会場のあちこちで「ホーッ」と感動する姿、あるいは静かに、しかしながら食い入るように画面を見つめている姿、等が見られ、列車が私達観客に迫ってくる最後のシーンは動労千葉の不屈の闘いと私達に対する行動の提起を象徴していて、極めて庄重な場面でした。映画が終わり、感激もさめやらぬまま、いたるところで賞賛の声があがり、上映会は大成功でした。参加人員は、会場を満席にする一〇七名でした。

私達自身、長期不屈の闘いを続けながら動労千葉の仲間を守り、連帯し、最後の勝利まで闘う決意を新たにしました。



初の上映会は成功裡に終了しました。（寄稿・千葉転支部 S生）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！